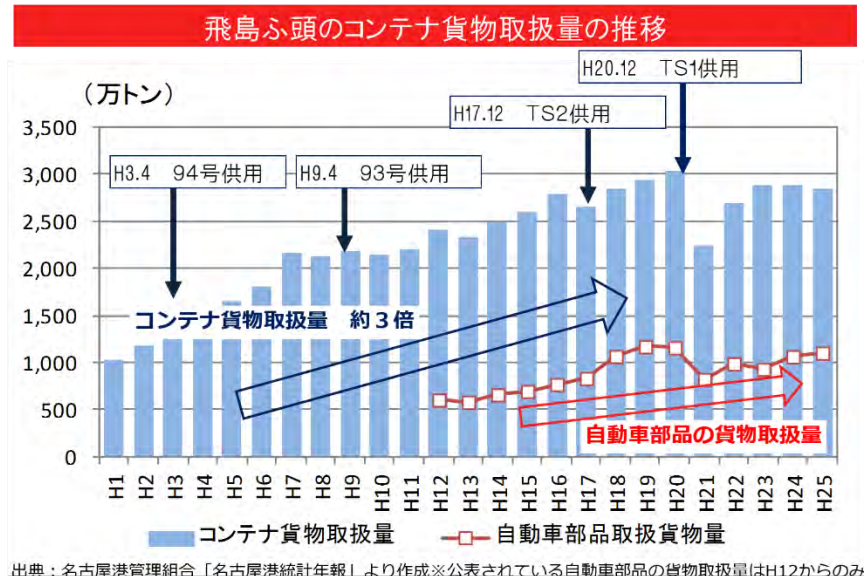
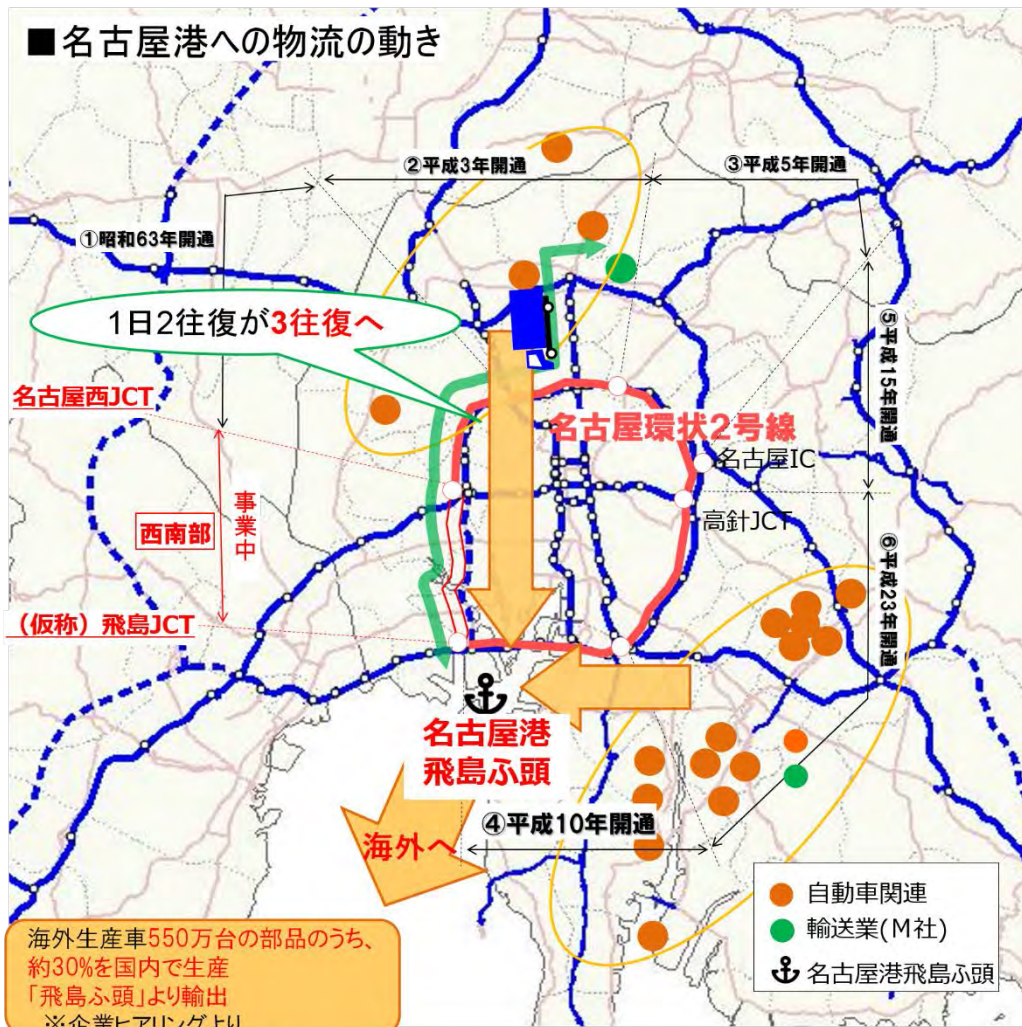


○複数事業間の連携を行い、一体的な実施を図ることにより、効果をさらに向上

- 名古屋港飛島ふ頭のコンテナターミナル整備により、海外向け自動車部品等のコンテナ貨物取扱量が約20年で約3倍に増加
- 名古屋環状2号線の整備により、小牧市と飛島ふ頭間の物流が効率化(企業ヒアリンクによれば、トラック回転数が以前の1日2往復から1日3往復に増加)



民間活力との連携

民間活力と連携し最先端機材を導入・物流効率の更なる向上を図る



(参考) 国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針

ポテンシャル

- 羽田空港との高いアクセス性
- リニア中央新幹線の整備
- MICE・宿泊施設等の機能集積
- 再開発による新たなまちづくりの進展



出典:JR東海ホームページ



出典:国土地理院ホームページ 電子国土web地理院地図(2007年~)

課題

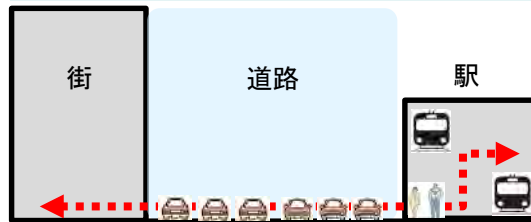
- 駅・街の低い連絡性
- 鉄道・バス等の乗り場の分散
- 駅前広場や歩行者の空間不足
- 国道15号の交通の輻輳



広域交通機能・国際交流機能の強化

道路上空を活用し、日本の顔となる『世界の人々が集い交わる 未来型の駅前空間』を創造

これまでの分断された空間



道・駅・街が一体の空間へ



立体道路制度を活用

■ 道路上空を活用した整備方針のイメージ図



※上記は、道路上空を活用したイメージ図であり、具体的な整備の方向性については、今後、関係者との検討を踏まえ、決定していきます。

- ① 直結通路、アトリウム広場
⇒ 歩行者と車の空間を分離
⇒ 駅と街の回遊性を向上
- ② 交通ターミナル
⇒ バス、タクシー乗り場を集約
⇒ 国内外旅行者に観光情報の発信
- ③ 民間商業施設
⇒ にぎわい空間を創出

民間からの提案を踏まえた
官民連携事業で実現